

議 事（１）

登別市地域公共交通計画の令和７年度の評価について
（令和７年４月～令和８年３月）

基本方針 1 既存公共交通を基本とした持続可能な公共交通ネットワークの確保

目標① 公共交通の維持を目的とした便数・路線の見直し

目標② ライフスタイルに合わせた公共交通サービスの導入

目標 (令和7年度)	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	令和8年度の取組予定
平日の公共交通利用者 (1便あたり)	次期計画に向けて当該目標の検討が必要	交通事業者からデータを提供いただき検証	人/便	登別駅を通行する路線バスを抽出し、1便当たりの利用者数を算出するが、登別駅を通行する便数は53便で、内20便が登別駅前～登別温泉で乗降データがない状況。 この乗車時運賃精算の整理券を取らない方式は今後も継続する見込みのため、当該指標について検討が必要。	次期計画に向けて指標を検討する。
24人/便			R2.10.16(金)の乗降データを基準としており、R7.10.16(木)のデータを活用することとなるが、登別駅前～登別温泉は乗車時運賃精算のため乗降データがなく、評価ができない状況		
グリーンスローモビリティ利用者数 (1便あたり)	—	—	平日：20.5人/便(参考値) 休日：19.4人/便(参考値)	観光客や地域住民の利便性向上や登別温泉のおもてなし向上の取組として、実証実験期間を経て無償運行としたため、自家用有償旅客運送の業務廃止とした。	—
平日：5.0人/便 休日：8.9人/便			詳細は別添説明資料参照		
人口当たりの公共交通市費負担額	生活に必要な路線が維持確保されるよう、赤字解消策について、道南バス(株)と検討	市の補助額と人口から検証	16.5円 達成	令和7年4月実施の運賃改定や、バスカードの一部券種廃止に伴う駆け込み需要等の影響により、大幅な改善となったが、今後も状況を注視する。	道南バス(株)と路線バスの利用状況や運転手の状況を共有し、赤字路線解消について検討する。
102円			R7 補助額 ÷ R7.9月末人口 (708千円÷42,900人) 対象路線(1路線) ・登別温泉～若山営業所 708千円		
グリーンスローモビリティの市負担額	—	—	0万円(参考値)	観光客や地域住民の利便性向上や登別温泉のおもてなし向上の取組として、実証実験期間を経て無償運行としたため、自家用有償旅客運送の業務廃止とした。	—
99万円			運行に係る協定にて、維持管理費の負担は登別国際観光コンベンション協会としているため、市負担額は0万円		
補助対象路線の経常収支率	経常収支率の改善について、道南バス(株)と検討	道南バス(株)提供資料により検証	76.9% 達成	令和7年4月実施の運賃改定や、バスカードの一部券種廃止に伴う駆け込み需要等の影響により、大幅な改善となったが、今後も状況を注視する。	引き続き状況を道南バスと共有し、継続的な目標達成に向け検討する。
58%			対象路線(1路線) ・登別温泉～若山営業所		
グリーンスローモビリティの収支率	—	—	%	観光客や地域住民の利便性向上や登別温泉のおもてなし向上の取組として、実証実験期間を経て無償運行としたため、自家用有償旅客運送の業務廃止とした。	—
72%			—		
公共交通説明会等の実施回数	バスの乗り方教室の実施	実施したバスの乗り方教室等を確認する	1回実施 未達成	昨年に引き続きイベントに抱き合わせで実施し、多くの方に周知することができたが、企業説明ブースへの来訪者はなかった。	バスの乗り方教室は引き続き実施しつつ、人材確保に向けた取り組みに比重を置いて進める。
3回			・約1,600人の来場 ・子どもから高齢者まで来場 ・企業説明ブースの設置		

基本方針 2 輸送資源の総動員と連携による公共交通の充実

目標③ 乗務員不足に対応した輸送手段の確保

目標④ 既存移動手段を活用した支援体制の構築

目標 (令和7年度)	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	令和8年度の取組予定
公共交通サービスの満足度	地域公共交通計画の推進	市のまちづくり意識調査等を活用し検証	52.7% (令和4年度値) 未達成 (令和7年度実施調査の結果は令和8年度評価より反映予定)	50歳代と60歳代での不満が多かったため、ターゲットを的確に捉えるほか、要因についても把握する必要がある。	目標達成に向けた取組を実施する際に、メインとなるターゲットを考慮する。
60%			「やや不満」「不満」と回答した方は50歳代(60.4%)と60歳代(49.7%)で過半数に達し、全体で「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合は52.7%		
乗務員の確保	イベント等を活用し、公共交通のイメージアップと同時に、乗務員確保に取り組む	交通事業者から年度末の乗務員数を提供いただき検証	326人 未達成	道南バス(株)R7:251人 室蘭ハイヤー(株)R7:62人 登別ハイヤー(株)R7:13人 昨年度に引き続き、目標未達成となっており、運転手確保の検討が必要。	退職自衛官向けの就活イベントの継続に向け、関係機関と検討を進める。
465人			道南バス(株)R2:366人 ⇒ 251人 室蘭ハイヤー(株)R2:69人 ⇒ 62人 登別ハイヤー(株)R2:17人 ⇒ 13人		
新たな公共交通サービスの提供(累計)	目標達成しているものの、必要な施策の検討を行う。	協議会で議論した新たな公共交通サービスを確認する	2件 達成	バスマップについては、ダイヤ改正等に応じて、適宜修正が必要。	公共交通空白地域の解消に向けた検討と免許返納者等への移動支援策の検討を進める。
2件			バスロケーションシステムを広域で導入 バスマップを市公式ウェブサイト公開。		

基本方針 3 地域住民・観光客に対する安全・安心な移動支援

目標⑤ 観光客に対応した移動支援

目標⑥ 公共交通空白地域における移動支援

目標 (令和7年度)	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	令和8年度の取組予定
観光客向けの公共交通支援(累計)	オーバーツーリズム対策の検討	協議会で議論した新たな公共交通サービスを確認する	2件 達成	関連する課題として、路線バスの最終便以降から始発便までの間は、JR特急列車等と温泉までの接続がない状況。	登別駅⇄登別温泉間の送客対策について検討を進める。
2件			・登別駅⇄登別温泉間の快速バスの運行支援 ・上記路線の事前決済システムの導入支援		
公共交通の人口カバー率	公共交通空白地域の解消方法の検討	協議会で議論した新たな公共交通サービスを確認する	82.29% 未達成	公共交通空白地域の移動支援策の検討のほか、運転手不足から既存交通の維持等について検討が必要。	他の公共交通空白地域も含めて検討を進め、実証実験も検討する。
88%			カルルス路線の廃止に伴いタクシー利用助成を実施しているほか、登別温泉のグリーンスローモビリティは自家用有償旅客運送の業務廃止があったものの、無償で運行しているため、数字は現状維持とした		

登別市地域公共交通計画の令和８年度予定について

1 登別市地域公共交通計画の改訂

現行の登別市地域公共交通計画の計画期間が令和４年度から令和８年度の５年間となっていることから、令和８年度中に改訂作業を実施する。

2 運転手確保支援策の検討

交通事業者における運転手不足は喫緊の課題となっていることから、運転手確保支援として、バスの乗り方教室と併せた企業説明会や退職自衛官向けの再就職説明会等を関係機関と連携して継続実施し、運転手確保につなげる。

3 運転免許証の自主返納者をはじめとした自動車を運転しない高齢者等の移動支援策の検討

交通弱者の移動支援の一助となるよう、また、危険運転防止や公共交通の利用促進を図るため、路線バス等の利用支援について引き続き検討する。

4 公共交通空白地域の移動支援策の検討

市内の公共交通空白地域である、常盤・柏木地区、登別地区について、タクシー事業者と連携した対応策を引き続き検討する。

特に、登別地区については、登別市地域公共交通計画の改訂に係るデータ収集を兼ねるものとして、令和８年度中に実証実験を実施する予定である。